

生涯教育研修活動報告書

細胞検査研究班

- 1 実施日時：2023年10月12日 18時00分～19時30分
- 2 会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点
- 3 主題：2023年 認定試験直前!!細胞診セルフチェック 第3弾
- 4 講師：急式 政志（地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター）
鶴岡 慎悟（独立行政法人地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセンター）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員 211名 賛助会員 0名 非会員 0名
- 7 出席した研究班班員：船津靖亮 加藤智美 猪山和美 野本伊織 稲山拓司 並木幸子
小川弘美

8 研修内容の概要・感想など

細胞診セルフチェックシリーズの最後となる第3弾では、小児領域の細胞診の解説と、総合問題として各領域を網羅した60題の細胞像写真をスライドセミナー形式で提示した。

講演1では、急式氏より小児領域の細胞像の解説が行われた。まず総論として、小児期の分類と定義や、各腫瘍の割合や好発年齢、病理学的特徴が述べられた。次に各論として、胚細胞性腫瘍群と芽腫性腫瘍群、それらに含まれないその他の腫瘍について、細胞像のみならず臨床的所見や組織像も含めた丁寧な解説が行われた。最後に、認定試験で小児領域の問題を解くテクニックとして、好発年齢・細胞の大きさ・特有の臓器名の有無の3点から解答を導き出すフローチャートの提示や、特徴的な所見の解説が行われた。

講演2では鶴岡氏より、第1弾や第2弾、さらには過去のセルフチェックシリーズから抜粋した60題の細胞像写真が提示された。第1弾から第2弾にかけて各領域の解説を終えていたため本講演での解説は割愛し、一つでも多くの細胞像を目にする時間を設けた。

本研修会は認定試験を受ける前の臨床検査技師向けに開催されているが、急式氏の講演の最後でも述べられていたように、「レアケースはいつか必ず起こる」ということを念頭に置き、よく遭遇する領域だけでなく全ての領域の知識と経験の研鑽が必要であると、現役細胞検査士も再認識する機会となった。

提出日：2023年10月19日

文責：小川弘美